



充実した健康長寿社会を築く 総合医療開発リーダー育成プログラム

社会・家族の起源に学び、“プロアクティブ”なフィールド研究を創出する

超高齢社会の医療

超高齢社会の課題

- 健康長寿とQOL向上
- 高齢者の社会参画
- 医療費の抑制

求められる総合医療システム

- 医療・福祉・在宅ケアの統合
- 個人の生活全体を考慮した支援システム
- 良い生活習慣による疾病・障害の予防

今必要とされるもの

- 社会や医療現場のニーズに立脚して総合医療システムを開発する医工学人材とこれを統率するリーダー

健康長寿社会の日本モデル

- 時代に即した**三世代互助**
- 地域社会に関わった医療支援
- 働ける限り**動きつつ健康維持**

総合医療と新たな医療産業



医学環境の中で医工学者育成

日本の責務:

- 医療と福祉の統合により地域の中で個々人の生活を支える総合医療システムの構築
- 後続諸外国にそのグローバルモデルを提示

充実した医学環境の中で医工学者を教育・育成

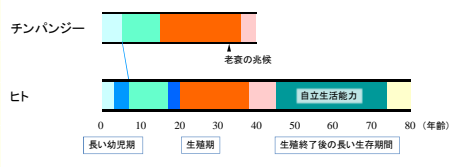
超高齢社会の諸問題を俯瞰し、メディカルイノベーションを通じて、充実した健康長寿社会の構築に貢献しうる**総合医療開発リーダー**を育成し、世界に輩出する

LIMSプログラム:

- 理工学・薬学・生物系学部出身者が、医学環境の中、産官学の学際的教育陣のもとに研鑽
- 基礎医学と生体知識を習得
- 医療・介護支援など、現場のニーズを理解
- 社会における医療ルールの理解(医療政策、医療経済、医療倫理、知財・国際標準化、など)
- 企業(医療機器、自動車、住宅産業、など)・公的機関での実践的学修とインターンシップ

進化の隣人に学ぶ

おばあさん仮説：ヒトでは、“高齢者から家族・社会へ”の子育て支援により、子供の成熟が遅いにも関わらず、母親が続けて出産することが可能となった。冗談関係：祖父母・孫の様に離れた世代間でからかったり、あからさまに禁忌を語ったりする関係が、親子の様な近接世代間に生じる緊張を緩和し、社会に柔軟性を生む。



超高齢社会のモデル:

- 社会参画、社会貢献しつつ健康維持することを可能にする、生活スタイルと価値観の創造。
- 必ずしも血縁によらない、異世代間の交流、「遊び」、互助関係を可能とする、社会システムの創出。

プロアクティブなフィールド研究へ!

地域社会・産業界と協力した実証研究

総合医療のサイクルをどう有効に回すか?

- 病院と在宅をつなぐ“中間施設”を標的にした、機器・システム開発。**新たな概念の「医療機器許認可」**の整備。
- 中間施設を巡り、**新しいサービス産業(企業)**を創設・育成。雇用創出・専門家育成。
- 新産業の創設は、行政・経済団体が推進。京都大学・企業・医療機関等が協力し、行政等を動かす為の**根拠(事実・数値・予測)**を提供。

社会というフィールドで技術を育てる

- 社会需要の側から発した、技術の創出・探索・統合
- 社会実証研究・社会実装の中での技術の成熟
- 社会実証研究を通じた評価基準・規制のあり方・倫理の整備

⇒ 許認可・社会実装・普及の迅速化

京都大学 LIMSプログラム

健康・医療データの二次活用に向け**ビジョン**設定
 どのような変革を標的とし、何を解析するか
 施策の費用対効果研究
 調査参加者への読得基盤・動機付け策定
 高齢者・こころの健康の疫学調査
 認知症発症予測と介入方法の開発
 ビックデータの収集・解析方法の開発

滋賀・長浜市

長浜予防コホート事業
 健康時から生体情報を蓄積
 → 解析・活用
 電子カルテの共有化
 各人に最も適した
 ・健康を維持する医療
 ・発症・重症化の阻止

京都市

伝統と進取の気性を併せ持つ都市の
 包括的運営モデル創出
 先進的医療特区を活用した**医療ツーリズム**
 「歩くまち」の健康・QOL向上の評価・実証
 高齢者の暮らし易い**京都家**モデル創出
子育て・教育～高齢者～在宅医療支援まで一貫した運営モデルの創出

京都府

けいはんな学研都市&周辺人口構成の揃った新興地域
 健康人・家庭の継続的調査
 ・エネルギー有効活用
 ・健康維持・増進

日本の‘健康・医療戦略’のさきがけ

内閣官房は、平成25年6月14日に、「健康・医療戦略」を発表したが、京都大学LIMSプログラムと極めて近い構想となっている。

- 基本理念
 - 健康長寿社会の実現
 - 医療関連産業の活性化
 - 超高齢化社会を乗り越えるモデルを世界に広げる
- 医学部・大学院を通じて、企業等と連携し、新たな医療機器等の研究開発でイノベーションを起こす人材の育成拠点を構築
- 医療ニーズの発掘から医療機器の企画・開発、薬事・知財戦略、ビジネスプランの策定までを一貫してマネジメントできるコーディネーター人材を育成

京都大学は、いち早く国家的課題を全学の課題として提示しており、率先して実施することが望まれる。

グローバルモデルに向けた議論の先導

京都大学は、学術的な連盟World Health Summit (M8) Allianceの一員として、政治・経済界の意思決定者と協力し、科学に基づいて世界の健康向上に貢献することに努めてきた。

- 第5回World Health Summit (2013年10月20-22日、ベルリン)では、「健康長寿社会に向けた学際的協同」会議を主催し、**日本のプロアクティブな取り組み**を紹介する。
 [座長: LIMSプログラムコーディネータ・福山秀直・医学研究科教授]
- 第7回 World Health Summit **地域大会 (2015年)の京都大学での開催**を提案する。

